

日本側拠点機関名	岡山大学
日本側コーディネーター所属・氏名	大学院教育学研究科・藤井浩樹
研究交流課題名	ESD（持続可能な開発のための教育）の教師教育推進に向けた国際研究拠点の構築
相手国及び拠点機関名	インドネシア（インドネシア教育大学）、ラオス（バンクーン教員養成大学）、モンゴル（国立モンゴル大学）、ミャンマー（ザガイン教育大学）、韓国（チョンジュ教育大学）、中国（香港中文大学）

研究交流計画の目標・概要

[研究交流目標]交流期間(最長3年間)を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

ユネスコ主導による「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development、ESD）」は過去10年間の取り組みを終え、2015年からはその一層の世界的普及をめざした「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム」のもとで展開されている。この間、岡山大学は、ESDのユネスコチェア（アジアで唯一）ならびに国連大学認定RCE（世界149カ所のESDの地域拠点、岡山は世界最初の7箇所の1つ）としてESDの教師教育に取り組み、学部・大学院の教員養成においてESD関連授業を開発してきた。また、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUivNet、国内18大学）の主幹大学として教育委員会や学校と連携し、ESDの教員研修のプログラムを開発してきた。その成果は、岡山大学が主導する岡山ESDプロジェクトが2016年9月に「ユネスコ/日本ESD賞」を国内で初めて受賞したことに表れている。

一方、ESDの教師教育機関国際ネットワーク（International Network of Teacher Education Institutions Associated with the UNESCO Chair on Reorienting Teacher Education to Address Sustainability、2014年11月の第8回国際集会を岡山大学が主管）では、ESDによる教師教育の成果を国内での普及にとどめることなく、国際的に普及させることが求められている。また、国際協力機構（JICA）を中心とした国際教育協力の方面では、発展途上国の学校教育におけるESDの導入とそのための教師教育への支援が求められている。こうした要請は、ESDの普及・発展には国際協働が不可欠であるという認識に基づくものである。

そこで本事業では、岡山大学及び国内協力機関が蓄積しているESDの教師教育の成果をもとに、既に交流のある東アジア（モンゴル、韓国、中国）と東南アジア（インドネシア、ラオス、ミャンマー）の教師教育の基幹大学と連携しながら、授業研究を基盤としたESDの教員養成・教員研修プログラムを共同で開発し、そのアジア・スタンダードを提案する。この共同研究を主軸にして、ESDの教師教育の中核的な研究交流拠点の確立、学術ネットワークの構築、及び次世代の研究者の育成をめざす。

[研究交流計画の概要] 共同研究、 セミナー、 研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

共同研究

日本の教育の強みは教師による授業研究（Lesson Study）の伝統である。岡山大学は、授業研究を基盤としたESDの教師教育に豊富な蓄積がある。共同研究では、岡山大学を中心に国内協力機関と6つの海外研究拠点機関（国立モンゴル大学、韓国・チョンジュ教育大学、中国・香港中文大学、インドネシア教育大学、ラオス・バンクーン教員養成大学、ミャンマー・ザガイン教育大学）で研究チームを組織する。そして、授業研究を基盤としたESDの教員養成・教員研修プログラムを共同で開発し、そのアジア・スタンダードを提案する。その際、気候変動、生物多様性、防災、貧困削減、持続可能な消費と生産といった持続可能性に関わるテーマについての科学的教養とそれを教育するための教職専門の知識をつなぐことを共通課題とする。

セミナー・シンポジウム

共同研究の遂行に沿って、国際セミナーを岡山大学で年3回開催する。また、国際シンポジウムを韓国・チョンジュ教育大学、インドネシア教育大学、ESDの教師教育機関国際ネットワークの国際集会で各1回開催する。そしてセミナーとシンポジウムの開催時に、若手研究者トレーニング・プログラムを開発・実施したり、若手研究者の研究交流の場を設けたりして、若手のアカデミック・パフォーマンスを向上させる。

研究者交流

共同研究、セミナー、シンポジウムの実施に加え、それらの成果や研究交流の進展状況をまとめた「ESD Teacher Education in Asia Quarterly Report」を刊行し、情報発信をする。こうした研究者交流を通して、ESDの教師教育のアジアにおける学術ネットワークを構築し、そのアカデミックな水準を高める。

